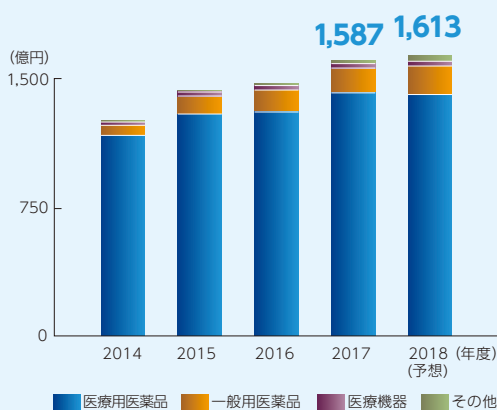


Japan Business 日本事業

日本事業 売上収益

2017年度

158,653百万円 **+9.1%**



医療用眼科薬 市場規模 / 参天製薬販売製品 市場シェア¹

	市場規模	市場シェア	
医療用眼科薬全体	3,633億円	46.2%	No.1
緑内障治療剤	1,149億円	31.2%	No.1
角結膜疾患治療剤	466億円	62.2%	No.1
網膜疾患治療剤 ²	853億円	71.8%	No.1
抗アレルギー点眼剤	429億円	47.9%	No.1
合成抗菌点眼剤	139億円	40.0%	No.1

1. 出典：Copyright © 2018 IQVIA. JPM 2016.4-2018.3を基に参天製薬分析無断転載禁止

2. 製造販売元であるバイエル薬品株式会社とのコ・プロモーション製品(抗VEGF薬「アイリニア」)を含む

事業戦略

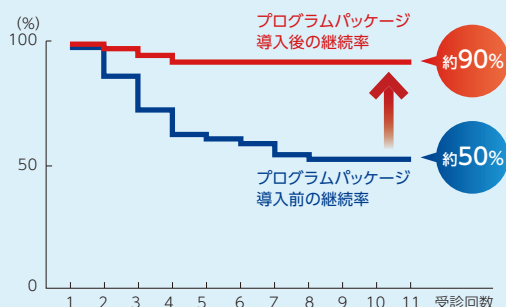
参天製薬は、日本の眼科領域において、医療用医薬品、一般用医薬品、医療機器の3事業を展開し、130年近くにわたり培ってきた圧倒的なプレゼンスを有しています。中期経営計画「MTP2020」においては、これまでの戦略をさらに進化させ、3事業それぞれの強みを最大限に生かして、「眼科のソリューションプロバイダーへの変革」を推進し、市場創造と新たなニーズへの対応を進めていきます。

医療用眼科薬事業では、20年以上連続でトップシェアを堅持しており、2016年度、2017年度と2年連続で、主要疾患領域全てにおいてNo.1¹を獲得しました。当社は、徹底した顧客志向と競争力のある幅広い製品ラインナップを強みとして、治療現場のニーズに応える医薬情報提供活動を行うことに注力し、各疾患における治療課題に対応した活動に取り組んでいます。薬価制度の抜本改革の議論が行われるなど製薬業界を取り巻く環境が厳しくなる中で、持続的な売上成長を実現するために、市場シェアの拡大、既存製品による市場拡大、新たな価値創造による市場拡大に向けた取り組みを進めています。また、継続的に新製品を発売し市場への浸透を図ることで、事業全体への薬価改定の影響を低減させており、2017年度の国内医療用医薬品に占める新製品比率は74.5%となっています。今後も、個別の製品の情報提供だけでなく、予防から診断・治療・治療後のフォローアップを含む眼科医療全体において、患者さんや治療現場のニーズに応じたソリューションの提供に取り組んでいきます。

緑内障患者さんの継続通院をサポートする取り組み

緑内障は、視神経に障害が起こり、視野(見える範囲)が狭くなる病気です。治療は、視神経がダメージを受けてこれ以上視野が狭くならないように、眼圧を下げるのが基本となります。一度障害を受けた視神経は元には戻らないため、生涯にわたり眼圧コントロールの治療が必要となります。しかし、失明に至るおそれのある疾患であるにもかかわらず、自覚症状が少ないため、治療を途中でやめてしまう患者さんも多く、治療継続率の向上が課題となっています。当社は、新たなソリューションとして、医療機関に対する独自に開発した緑内障治療継続プログラムパッケージの提供を開始しています。2016年に先行実施した11施設では、治療継続率が約50%から約90%へと大幅に向上しました。

緑内障患者さんの治療継続率



一般用医薬品事業では、販売本数日本³の目薬「サンテFXネオ」を有する「サンテFX」シリーズや「ソフトサンティア」シリーズなどの主力製品の販売に注力するとともに、「サンテメディカル」シリーズ、「サンテボーティエ」シリーズなどの高付加価値・高価格帯品を中心とした製品展開を行っています。生活者から支持されるNo.1企業を目指して、医療用眼科薬で培った専門性・技術力を生かして、スイッチOTC⁴などを含む新たなニーズへの対応に取り組みます。

医療機器事業では、白内障手術領域における眼内レンズに特化して展開しています。当社は高屈折率の新しい素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズを2008年から販売しており、より自然な見え方が期待できる「エタニティー ナチュラル」、製品形状に工夫を施した「エタニティー ナチュラル ユニ」に加え、2017年4月からレンズのデザインを進化させた「エタニティー ナチュラル ユニアール」を販売しています。透明性に優れた高品質なレンズをコンセプトとする「エタニティー」シリーズの浸透に加え、新製品の開発、医薬事業との連携による体制の強化を通じて、眼科の手術領域におけるさらなる貢献を目指します。

3. 2017年度の日本における一般用点眼薬市場での本数シェア 出典:当社集計資料

4. 医療用から一般用に転換した医薬品

(参考)薬価改定率

	2018年
全体	-7.48%
眼科薬	-5%台半ば
参天製薬	-4%台半ば

業績概況

日本での医療用眼科薬の2017年度売上収益は、前期比8.3%増の1,404億円となりました。各領域における主力製品の売上収益は、下の表の通りです。

一般用医薬品の2017年度売上収益は、前期比15.1%増の143億円となりました。訪日外国人旅行者によるインバウンド需要の取り込みに加え、「サンテボーティエ」シリーズ、新「サンテメディカル」シリーズなどの高価格帯品が好調を維持しています。また、「サンテFX」シリーズでは、人気アニメとのコラボレーション企画が奏功しました。

医療機器事業の2017年度売上収益は、医薬事業との連携による体制の強化を通じて顧客ニーズへの対応に努めたことにより、前期比0.5%増の25億円となりました。

		売上収益(億円)	前期比
緑内障治療剤	タブロス	96	+0.2%
	タブコム	25	+9.9%
	コンプト	114	+0.3%
角結膜疾患治療剤	ヒアレイン	108	-9.1%
	ジクアス	128	+16.4%
網膜疾患治療剤	アイリーア ⁵	515	+14.1%
抗アレルギー点眼剤	アレジオン	169	+37.7%
合成抗菌点眼剤	クラビット	41	-11.9%

5. 製造販売元であるバイエル薬品株式会社とのコ・プロモーション製品

新たなソリューションの提供

当社は、眼科領域の新たなソリューションの提供に積極的に取り組んでおり、たとえば、サプリメントやスイッチOTCの開発を進めています。

サプリメントについては、2008年より販売しているルテイン配合の「サンテルタックス」に加えて、2017年に松樹皮エキスとビルベリーエキスを配合した「サンテグラジェノックス」を発売しました。なお、「サンテグラジェノックス」は医療機関を通じて本製品の紹介を受けた患者さんのお届けしています。

